ソヴェト文化 [復刻版] 全2巻＋別冊1

◉収録号数＝創刊号（1946年5月）→第16号（1949年3月）
◉原本発行所＝ソヴェト文化社
◉揃価格＝本体46、000円＋税
ISBN978-4-8350-7905-9
◉体裁＝B5判・上製・総640頁
◉解説・総目次＝吉田則昭
（立教大学社会学部兼任講師・メディア史、比較ジャーナリズム史）
◉別冊＝解説・総目次・索引（A5判・並製・54頁）
本体価格1、000円＋税 ISBN978-4-8350-7909-7

ソヴェト映画 [復刻版] 全4巻＋別冊1

◉収録号数＝第1号（1950年2月）→第34号（1954年6月）
※号数は通巻号数です
◉原本発行所＝北星商事株式会社→ソヴェト映画社
→世界映画社
◉揃価格＝本体96、000円＋税
ISBN978-4-8350-7910-3
◉体裁＝B5判・上製・総1、406頁
◉解説・総目次＝フィオードロワ・アナスタシア
（日本学術振興会特別研究員PD・映画学、日本映画・ロシア映画専攻）
◉別冊＝解説・総目次・索引（A5判・並製・92頁）
本体価格1、500円＋税 ISBN978-4-8350-7916-5

★二誌を推薦します

谷川建司（映画ジャーナリスト）
土屋礼子（早稲田大学政治経済学術院教授）
メリニコワ・イリーナ（同志社大学グローバル地域文化学部教授）

◉関連図書のご案内

記録映画作家協会 発行〔1958～64年刊〕
記録映画 全6巻・別冊1
体裁＝B5・上製・総2、694頁
別冊＝解説（阪本裕文・佐藤洋）・総目次・索引
推薦＝川本博康、マーク・ノーネス、松本俊夫
揃定価＝本体150、000円＋税

ドキュメンタリー映画のみならず、教育映画・劇映画・テレビドキュメンタリー・文学・美術・音楽・写真など、様々な領域の諸動向の線は、その全てが何らかの形で雑誌『記録映画』という点を通過していたことが分かるだろう。

新女性社 発行〔1950～56年刊〕
新女性 全16巻・別冊1
体裁＝A5判・上製・総9、496頁
別冊＝解題（伊藤康子）・総目次・索引＋DVD-ROM
推薦＝犬丸義一、坪井秀人、橋本宏子、藤目ゆき
揃定価＝本体370、000円＋税

本誌は、GHQ占領政策が右旋回し、新憲法下で再出発した女性運動も冷戦激化の影響を大きく受けた時代のなかで、性差別や政治弾圧事件、生活や職場の問題、平和擁護の闘いなど、懸命に生きる女たちの姿を記録した。

人民文学社 発行〔1950～55年刊〕
人民文学 全15巻・付録1・別冊1
体裁＝A5判・上製・総6、750頁
別冊＝解説（道場親信・鳥羽耕史）・解題（鳥羽耕史）・回想（柴崎公三郎）・総目次・索引＋DVD-ROM
推薦＝加納実紀代、島村輝、坪井秀人、成田龍一
揃定価＝本体256、000円＋税

敗戦後、各地で文化運動が勃興しサークル雑誌が誕生するなか、本誌は1950年、『新日本文学』を離れた江馬修、藤森成吉らにより創刊された。安部公房、野間宏、労働者作家の小林勝、春川鉄男、さらに金時鐘、松田解子ら在日朝鮮人、女性の執筆者も多い。

表示価格は、全て税別

不二出版
〒一一三－〇〇二三 東京都文京区向丘一－二－一二
TEL ○三－三八一二－四四二三
FAX ○三－三八一二－四四六四
振替 ○○一六〇－二－九四〇八四

ソヴェト文化 [復刻版] 全2巻＋別冊1

★ソヴェト文化社 発行〔1946年5月→49年3月〕◉解説・総目次――吉田則昭

戦後、1946年から1954年まで
米ソ冷戦下の文化雑誌を2点同時復刻刊行
戦後日本の文化受容を辿れる歴史資料

◉復刻版概要――B5判・上製・総640頁
揃定価＝本体46、000円＋税
ISBN978-4-8350-7905-9

ソヴェト映画 [復刻版] 全4巻＋別冊1

★北星商事株式会社ほか 発行〔1950年2月→54年6月〕◉解説・総目次――フィオードロワ・アナスタシア

◉推薦――谷川建司、土屋礼子、メリニコワ・イリーナ

◉復刻版概要――B5判・上製・総1、406頁
揃定価＝本体96、000円＋税
ISBN978-4-8350-7910-3

不二出版

◎『ソヴェト文化』『ソヴェト映画』推薦の辞――五十音順

オルタナティヴな文化受容の基礎を築いた雑誌

谷川　建司

今から五〇年前の一九六六年、モスフィルム製作の七〇ミリ超大作『戦争と平和〈第一部〉』はこの年の興行成績洋画第三位の大ヒットを記録、翌年には同〈完結篇〉も続き、大きな文化的現象を巻き起こした。ソ連映画に来日キャンペーンが行なわれ、ハリウッド超大作並みに一流劇場で拡大ロードショー公開されて大ヒットする、というのは今日では考えられないが、半世紀前の日本ではそれが可能なだけのオルタナティヴ文化の受容へのキャパシティも成熟度もあったのだ。オルタナティヴとは、勿論アメリカ文化に対しての、という意味だ。

その、オルタナティヴなソヴィエト文化受容の基礎を築いたのが、雑誌『ソヴェト文化』や『ソヴェト映画』であり、それらの雑誌に寄稿し、座談会に加わった文化人たちを中心とする知識層だ。その核であった土方敬太はソ連映画配給の北星商事（北星映画）を設立し、雑誌『ソヴェト映画』を発行した当事者だが、他にも後に日本中国文化交流協会の要職に就く前進座の河原崎長十郎、独立プロで作品を発表していく今井正、山本薩夫といった映画作家たちもいた。二つの雑誌はソ連を中心としつつも、共産化した中国の状況、日本の独立プロ運動などを知る上でも貴重な手掛かりを与えてくれる。

因みに、北星映画は『ソヴェト映画』が終刊し、世界映画社刊の季刊誌に衣替えするのと同時に経営難から改組、独立映画と社名を変え独立プロ作品の配給を手掛けるが、更にその後邦画製作の大東映画と洋画配給の大洋映画に分離、後者がヘラルド映画に吸収された。ヘラルドは洋画配給の老舗NCCと合併、日本ヘラルド映画となり『戦争と平和』を配給することになる。

雑誌『ソヴェト文化』、『ソヴェト映画』が復刻される意義は、戦後日本の文化受容の在り方を検証する上で誠に大きいと言えよう。

（映画ジャーナリスト）

冷戦史を越えて読むべき占領期の文化雑誌

土屋　礼子

この二つの雑誌は、戦後間もない日本で出されたソビエト連邦の文化的プロパガンダ誌として占領軍によって監視された出版物ではあるが、それだけで片付けてしまうべきではない多様性を孕んでいる。その中には、社会主義国家ソ連の先進的な文化と、伝統的なロシアの民族文化が折り重なり、その両者の共存が多くの日本人を引きつけたと思われるからである。周知のように、明治初期からナロードニキ運動、ツルゲーネフやトルストイをはじめとするロシア文学、そして革命を夢見たロシア・アヴァンギャルドに日本の知識人は文化的影響を受けてきた。しかし、日本の大衆がロシア文化を受容するようになったのは、戦後のソヴィエト映画によってではなかったか。一九四八年に日本で公開され人気となった『シベリヤ物語』は、カラー画面の鮮やかさもさることながら、都会の貴族的芸術たるクラシック音楽を捨て、シベリアの農村で人々の素朴な唄の中に真の音楽を見出していくという主人公の物語に、少なからぬ人々が共感を覚えた。それはジャズやカフェーに象徴される都会の退廃した西欧文明に、健康で力強い大地に根付いた自らの民族文化を対置させ、農民や兵士や労働者を誇らしく肯定するという点で、戦時中の日本のプロパガンダに通じる要素を含んでいた。日本の総人口の半分以上が農漁村に住んでいた当時、それゆえに人々はソヴィエト文化に、欧米文化とは別の民主主義と文明の可能性を見出そうとした。米ソ冷戦の枠のみでは捉えきれないさまざまな声を、当時の誌面から直接読み取ってほしい。

（早稲田大学政治経済学術院教授）

◎『ソヴェト文化』『ソヴェト映画』推薦の辞

一九五〇年代の日本社会を写し出すソビエト映画専門誌

メリニコワ・イリーナ

第二次世界大戦の終了は、「米ソ冷戦」という新たな戦争の始まりでもあった。世界の覇権を争うアメリカとソ連は、あらゆる活字媒体や視聴覚メディアを用いて、自らの政治や経済、文化の優位性を訴えた。一九五〇年から一九五四年にかけて発行された月刊誌『ソヴェト映画』もまた、ソビエト連邦が掲げるイデオロギーを冷戦下の日本で広めるための有力な手段であった。『ソヴェト映画』のデザインや、その記事の内容は、社会主義の宣伝に用いられた報道戦略を考える上で極めて重要な史料である。

日本で唯一のソビエト映画専門誌として刊行された『ソヴェト映画』には、劇映画に限らず、ドキュメンタリーやアニメーション、ソビエト連邦におけるスタジオ・システムや映画教育に関する情報が満載である。と同時に、『ソヴェト映画』は決して「映画」や「ソビエト連邦」だけに特化した雑誌ではない。そこには、東欧や東アジアの社会主義国における映画制作事情や、一九五〇年代の日本で起こった独立プロ運動に関する情報が紹介され、ソビエト連邦における文学や美術、演劇やスポーツをめぐる記事が掲載された。当時の日本で流行していたロシア民謡の楽譜や、伝統的なロシア料理のレシピ、ロシア人が着る民族衣装の縫い方など、そこで取り上げられる題材は実に多様であった。雑誌『ソヴェト映画』にはまた、冷戦下の日本における左翼運動の歴史を探る手がかりが豊富に散りばめられている。各号の最終頁に掲載された読者からの投稿欄には、戦後の世論を騒がせた松川事件（一九四九年）の被告が雑誌の編集部に宛てた手紙が公表され、映画学に限らず戦後の日本社会全般に関わる歴史問題を再吟味する機会を我々に与えてくれる。

（同志社大学グローバル地域文化学部教授）

戦後ソビエト文化の流入と受容

吉田　則昭

はじめに

敗戦による日本占領は、「第二の開国」とも称されるように、GHQによる統治下、アメリカ的生活様式が普及するとともに、各種メディアによってアメリカ文化が大量に流入した時期であった。他方で、アメリカ文化以外の文化は、統治者側からどれだけの許容範囲をもって日本に紹介されたのか。

こうした問題を考えるために、戦前までソビエト文化がどのように受容されてきたのかをかえりみなければ、占領期におけるソビエト文化の動向を理解することは難しいだろう。戦前のソビエト文化受容は、歴史的にみて一九一七年のロシア革命を起点とし、その後、ソ連に対外文化連絡協会（対文連、VOKS）が発足、世界各国で「連友の会」の組織される中、日本でも一九三一年に「ソヴェト友の会」が結成されるなど、左翼知識人だけでなく一定の層による文化受容が行われていた。

ひとまずソビエト文化受容の軌跡を、演劇という面からみていくならば、その上演の歴史は明治期にまでさかのぼる。例えば、マクシム・ゴーリキーの『どん底』（当時の公演タイトルは『夜の宿』）は、一九一〇（明治四三）年に小山内薫訳・演出、市川左団次らの出演で自由劇場により初演されている。のちに新劇演出の第一人者となる土方与志

『ソヴェト映画』解説

フィオードロワ・アナスタシア

はじめに

雑誌『ソヴェト映画』は、一九五〇年から一九五四年にかけて発行された日本で唯一のソビエト映画専門誌である。その誌面には、世界映画史に軌跡を残したソビエト映画や、一九五〇年代当時のソビエト映画界に関する情報、戦前の日本でソビエト映画の宣伝に携わってきた文化人の証言など、二〇世紀のロシア文化と、日本におけるその受容を考える上で貴重且つ稀有な資料が揃っている。また、雑誌『ソヴェト映画』は、一九五〇年代初頭の日本で台頭した左翼運動の重要な記録でもある。そこには、戦後の日本でマルクス主義を支持し、その普及に努めた人々の文化や政治に対するあらゆる見解が凝縮され、冷戦下の日本で展開されたイデオロギー対立を痛切に物語っている。

実際、一九五〇年代の初頭にソビエト映画を専門とする雑誌がソビエト国外で出版されていたことは、世界的に見ても極めて珍しい事例である。一九五〇年代初頭のソビエト映画は、その生産性と芸術的レベルにおいて、著しく停滞していた。多少厳しい評価になるが、当時のソビエト連邦で作られていた映画は、一九二〇年代に栄えたアヴァンギャルド映画芸術や、一九五〇年代後半の雪解け期に台頭したソビエト・ヌーヴェル・ヴァーグと比べて遥かに劣っており、専門誌で取り上げるほど優れてはいなかった。にもかかわらず、雑誌『ソヴェト映画』が創刊されたのは、

◎『ソヴェト文化』内容見本

ソヴェト文化――それは
働くものの文化
勞働のなかに喜びを見いだす文化
生産のための文化
新しい生命と力とを生みだす文化
だからそこには――
生産者のみが味ひうる
明るさ
明日への希望
健康なたくましいエネルギー
これらすべてが生々とみちあふれてゐるのだ！

ソヴェト文化――それは
封建主義の、さらに又資本主義の
あらゆる束縛から解放された文化
だからそこには――
すべての人々が人間性そのままに
祖國への愛を
國の指導者への信頼を
民族の同胞的友愛を
青春の愛を
懐疑
虚無
憂ひ
自暴自
傍觀的
すべて古
殘つて
かくも自
だからそ
ソヴェト文
よりよい
人類の進
ソヴェト文
眞の人民
眞の民主

▶創刊号

『ソヴェト文化』既刊號内容

創刊號

第二次世界大戰と……堀江　邑一
ソ連の役割
ソヴェト民主主義……畑中　政春
と自由（上）
新しい人民文化……福井　研介
ソヴェト愛國主義…ゴルバートフ
新世界の富……宮本百合子
新しいソヴェト人……横田　瑞穂
のタイプ
二つの世代……田中　實
社會主義農業の話（一）的場德造
ソ連は何故太平洋戰爭に參戰した
か？…ソ連の選擧はどのように行
われるか？……園部　四郎
（小説）メルシエ將軍・藝術……エレンブルグ　原子林二郎譯
兒童文化施設・ソヴェトの婦
人・科學トピックス・ソ連邦
國家（樂譜と歌詞）

第二號

戰後經濟復興と……西澤　富夫
新五カ年計畫
ソヴェト民主主……畑中　政春
義と自由（下）
戰勝の文學（上）……小川　亮作
みんな知りたがつている…上田進
ロシヤ文學と日……平林たい子
本の小説
（繪と文）モスクワの春…赤松俊子
五カ年計畫はいか……園部　四郎
にして作られるか
社會主義農業の話……的場　德造
（二・完）

第三號

人民文化の榮える國…園部　四郎
働く權利と……バシエルストニク
休む權利
ソヴェト家庭の建設…佐藤　福子
コルホーズ農民の生活…的場德造
北極の科學者たち……田中　實
五カ年計畫の話（一）…田村清吉
ソヴェトでは宗教は……園部　四郎
どうなつているか
（繪と文）森のモスクワ…赤松俊子
タヴアーリシチ……除村　ヤエ
（小説）三月―四月…井上蕭譯
（第二回・完）
ソヴェトの藝術界・ゴリキイ
回想・ソヴェト最高會議の記
錄・ソヴェト總選擧の總決算
・赤い隅・青年（樂譜と歌詞）

第四號

ソヴェトの醫療制度……田中　實
ソヴェトの通俗科學雜誌玉木英彦
ソヴェト議會の話ズボロフスキー
レニン・スターリングルーズジエフ
ン・ゴーリキイ
ソヴェト勞働者の話…西澤　富夫
ソヴェトでは何故蕭……園部　四郎
正が行われるか？
ソヴェトの配給……北垣　信行
監督制度
スターリン賞（科學部門）・
科學トピックス・建設ニュー
ス・短波ニュース・復興ニュ
ース・カリーニンと農民
（定價各冊十五圓・送料一圓）

ソヴェト文化から立
ソ連では私有財産は……園部　四郎
どうなつているか
（小説）三月―……コジエヴニコフ
四月（第一回）……井上蕭譯
文化ニュース・科學トピック
ス・「イラン問題」とは何か
？・ソ連戰災都市の復興・赤
い隅・北滿北鮮の治安はなぜ
亂れたか？・大膽に同志上足
並揃えて（樂譜と歌詞）

第三號

人民文化の榮える國…園部　四郎
働く權利と……バシエルストニク
休む權利
ソヴェト家庭の建設…佐藤　福子
コルホーズ農民の生活…的場德造
北極の科學者たち……田中　實
五カ年計畫の話（一）…田村清吉
ソヴェトでは宗教は……園部　四郎
どうなつているか
（繪と文）森のモスクワ…赤松俊子
タヴアーリシチ……除村　ヤエ
（小説）三月―四……コジエヴニコフ
月（第二回・完）…井上蕭譯
ソヴェトの藝術界・ゴリキイ
回想・ソヴェト最高會議の記
錄・ソヴェト總選擧の總決算
・赤い隅・青年（樂譜と歌詞）

第四號

ソヴェトの醫療制度……田中　實
ソヴェトの通俗科學雜誌玉木英彦
ソヴェト議會の話ズボロフスキー
レニン・スターリングルーズジエフ
ン・ゴーリキイ
ソヴェト勞働者の話…西澤　富夫
ソヴェトでは何故蕭……園部　四郎
正が行われるか？
ソヴェトの配給……北垣　信行
監督制度
スターリン賞（科學部門）・
科學トピックス・建設ニュー
ス・短波ニュース・復興ニュ
ース・カリーニンと農民
（定價各冊十五圓・送料一圓）

コルホーズの機械化…的場　德造
戰勝の文學（二・完）…小川　亮作
アネクドート……尾形　昭二
ソヴェトの勞働賃銀……園部　四郎
はどうなつているか
（繪と解説）歴史畫家スリコフの
（小説）コゼツ……バベエフスキー
クの女　横田瑞穂譯
一九四五年度スターリン賞（藝
藝術部門）・待ちたまえ（樂
譜と歌詞）・赤い隅・短波ニ
ユース・スポーツニュース・
ソヴェトの婦人代議員・南樺
太と千島列島の日本人はどう
しているか？・スポーツバレ
ード（グラフ）

第五號

社會主義と科學……田中　實

後記

ソヴ
會の國
る。
る血の
再建途
でもその責任
双肩にになな
は、單に興味
でなくて、明
を與えるもの
本誌の使命は
最も大きな文
の一つといつ
と編集者は信
責任を感じて
の關係で部數
注文に應じき
け本誌を回覽
れを中心に活用
て大いに活用
日本國民を戰
日本の反ソ的
因のひとつで
決して忘れて

◀第7号

ソヴェト文化　第7號　定價　20圓
ソヴェト研究者協會
日ソ文化連絡協會
編集者
発行者

◎『ソヴェト映画』内容見本

モスフイルム 1947年度作品 • 1948年プラーグ國際映画祭第一位 • スターリン受賞作品
監督・イワン・プイリエフ　主演マリーナ・ラドイニナ　ウラジミル・ドルージニコフ

シベリヤ物語

裝いもあらたに
ふたたび訪れた
感激の豪華大作
要望に應えて新
輸入自主配給！

提供・ソ連映画輸出協会　配給・北星商事株式会社

一九五〇年のスクリーンに輪る大作陣

提携・ソ連映画輸出協会　配給・北星商事株式会社

還つて來た三人の男―コルホーズの働らき手と技師と氣象學者をめぐる背景三重唱『石の花』のアトーシコが描く總天然色寫眞映画。タマーラ・マカーロワ主演

三つの邂逅（原名）

美しいトルクメンの眞光を背景にくりひろげられる男民族人のあいだの恋。新しい世界のモラルを語るアシハバット・スタヂオのスターリン賞作品

遠い花嫁（原名）

『シベリヤ物語』に次ぐ豆腐イワン・プイリエフの總天然色映画。雄談十すむコルホーズを中心にこころあたたまる音樂と人間愛が描かれる1950年度作品。

陽氣な定期市

◀第1号

ソヴェト映画の印象座談會

亀井文夫・河原崎國太郎・土方敬太

◀第1号

『ソヴェト映画』主要内容索引

自創刊號――至第一六號（カッコ内の數字は號數を示す）

論説と研究

（1）ソヴェト映画三十年を認う　ポリシャコフ
（1）ソヴェト映画の特徴　今村太平
（1）ソヴェトの記録映画　土方敬太
（2）ソヴェト映画の三十年と　土方敬太
ロシア文化の
（2）學術普及映画の三十年　エイゼンシュテイン
（2）A・ドヴジェンコの思い出　土方　巽
（3）藝術記録映画について　岩瀬　正嘉
新分野の確立
必然的な發展　土方　敬太
（3）ソヴェト映画の内容と形式　ナザーロフ
（3）科學と藝術の統一へ　新沼　吉三
（4）ソヴェトの兒童映画　成田　梅吉
（11）ベルリン陥落の完成まで（十號より連載）
（12）ソヴェト映画技術の新しい　高橋　梅吉
（13）平和への交響樂　成田　瓜生
（13）ソヴェト映画と音樂　忠夫
（14）ムツソルグスキーが示す　成田　梅吉
（14）偉大な傳記映画の道　山形　瑾策
（15）日本におけるソヴェト映画　マースロフ
（15）中國人民と共に　ゲラシモフ
新しい中國を訪れて　ユトケヴィチ
（15）「シベリヤ物語」は答える
「文藝學研究所」の批判
（16）「ソ連の宣傳は
もう澤山だ」
カンヌにおけるソヴェト映画　尾形　昭二

ソヴェト映画の足跡（名作場面集）

（5）チャパーエフ（6）マキシム三部作
パルチック艦隊の代議員
（7）十月のレーニン・一九一八年のレーニン
（8）最後のあがき・猫かなる愛人
（9）ジニコフスキー
彼等に祖國あり
（10）中國人民の勝利・蘇のはなし
（11）一九五〇年度の作品展望
（11）新作映画物語集
（11）シンデレラ姫
（12）密使・勇敢なる人々・モスクワを遠くはなれて・偉大なる力
（14）ムツソルグスキー　ショスタコヴィチ
ポリーソフ
成田　梅吉
須藤　五郎
（14）ソヴェト映画の訴えるもの
平和を熱愛するソヴェト映画

隨筆

（1）ソ連映画の魅力　佐多　稻子
（1）國府座の思い出　河原崎長十郎
（1）ソ連映画の眺望　桑野　明
（1）美しい婦人眼　土方　梅子
（2）天然色技術發表書　田口河三郎
（2）ソヴェト映画の色彩　羅田　新生
（2）モスクワの映画館　畑中　政春
（2）オネーギンその他　藤原　義江
（2）「人生案内」の來た頃　中根　宏
（2）俳優・俳優を語る
（3）三島雅夫・ドヴルージニコフ
（3）山口淑子・ラドイニナ
（4）中村岳陵・門一・チェルカソフ　須藤　五郎
（4）シベリヤ物語を中心に　赤松　俊子
（5）ソヴェト映画断想　片岡かおる
（6）「村の女教師」より　岡分一二郎
（6）天然色映画の優色　土屋　精之
（9）はじめて見たソヴェト映画　袋　一平
（9）ソヴェト映画の訴えるもの
（13）平和を熱愛するソヴェト映画
（14）ソヴェト映画の魅力
（14）ソヴェト映画の三十年
（14）ソヴェト映画の思い出
（15）ソヴェト映画の眺望
（15）ソヴェト映画の色彩
（15）ソヴェト映画の優色
（16）ソヴェト映画の訴えるもの
（16）ソヴェト映画の魅力
（16）ソヴェト映画の思い出

ソヴェト映画の足跡

（7）下獄を前にしてアルバート・マルツ
（8）ハリウッドの歴史
（9）たたかうホリウッド　アンドレエフ
（10）「ピンキー」の歌調　エルムトレム
（11）ソヴェト映画ラ「ザ　ジン
（16）

フランス・イタリー・イギリス映画

（5）フランス映画の現實　ユトケヴィチ
（5）マーシャルプラン下のイギリス映画　モンタギュー
（6）戰後イタリヤの現實　ダニーロフ
（9）かくてイギリス映画の　アンドレエフ
ルネサンスは終ぬ
（12）フランス映画の危機　セルゲエフ

われらの視点

（8）岐路に立つ日本映画　寺田　寛
（8）映画一面　常景　岩崎　昶
（8）ロアメ映画　ドーニュース　論
（9）日本映画の貧困　木村　浩
（9）外国映画の勢力　抗議　岩崎　昶
（10）古い映画と新しい映画　抗議　時實　雄
（11）「映画文化法」と　岩崎　昶
（11）勝利の法と　山本　薩夫
（14）

年表

（2）ソヴェト映画年表（第）（21）　同（三）

◀第17号